

訪問看護を利用している終末期がん患者の在宅看取りに関連する要因

1. 研究の対象

2013年4月～2017年3月に「末期がん」と診断され、在宅療養支援ステーション 楓の風の訪問看護を利用し、期間内に利用を終了された方

2. 研究目的・方法

日本の高齢化は急速に進み、それに伴い死亡者数が増加しています。自宅で亡くなる方の割合は約1割と少ないのですが、「自宅」で最期を迎えることを希望する方の割合は約5割におよび、人々の希望と実際に死亡する場所では乖離が生じているといえます。中でも、がんで亡くなる方のうち自宅で亡くなる割合は少なく、がんの療養者が自宅で亡くなることを望んでいられない現状があると考えられます。そこで本研究では最後まで自分らしく地域で生活することを支えていくために、在宅での看取りに何が影響しているか、どのような支援が必要かを明らかにすることを目的として研究することを計画しました。分析は個人情報を守るため、訪問看護記録からお名前や住所などの個人情報を切り離れた状況で行います。

研究期間:2017年6月～2018年3月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- (1) 訪問看護記録書 I-1より①年齢、②性別、③死亡場所、④介護状況、⑤家族構成
 - (2) 訪問看護記録書 I-2より⑥ADL の状況、⑦身体状況、⑧問題行動、⑨認知症の状況、⑩寝たきり度、⑪医療機器装着状況、⑫身体状況(麻痺・疼痛・褥瘡の有無)、⑬社会資源の利用状況、
 - (3) 訪問看護指示書より⑭主たる傷病名、⑮病状・治療状態、⑯要介護認定の状況、⑰褥瘡の深さ、⑱装着・使用医療機器
 - (4) 訪問看護計画書より⑲看護計画
 - (5) 訪問看護報告書より⑳看護実施結果、㉑評価
- ただし(4)、(5)は訪問看護利用を終了または中止した月に作成されたもの。

4. 外部への試料・情報の提供

昭和大学保健医療学部へのデータの提供は、研究関係者以外がアクセスできない状態でを行います。どの利用者さまの情報であるか直ちに判断できないよう記録からカルテ番号と氏名、住所を削除した情報のみを、新たに研究番号を付してデータ化します。情報の使用について拒否のお申し出があった場合のために作成するカルテ番号と新たな研究番号の対応表

は、在宅療養支援ステーション楓の風において個人情報管理責任者が厳重に保管・管理します。

5. 研究組織

昭和大学保健医療学部看護学科 教授	富田真佐子
昭和大学大学院保健医療学研究科博士前期課程	藤澤真沙子
昭和大学保健医療学部看護学科 講師	村田加奈子

在宅療養支援ステーション楓の風 副代表	野島あけみ
---------------------	-------

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

個人情報管理責任者：在宅療養支援ステーション楓の風 副代表 野島 あけみ

〒194-0011 東京都町田市成瀬が丘 2-2-2 ワタヤビル 3F Tel:042-78-0755

研究責任者：昭和大学保健医療学部看護学科 教授 富田 真佐子

〒226-8555 神奈川県横浜市緑区十日市場町 1865 Tel:045-985-6500(代表)

Email: matomita@nr.showa-u.ac.jp